

一. 学校の概要

豊野西小学校は、豊野町の西側、山のへりに周囲をリンゴ畑で囲まれた自然環境豊かな場所に位置している。この地は古くから北国街道、飯山街道の宿場として、北信濃の文物交流の要衝の地として独自の文化を発展させてきた。

本校は学校目標を、「克己」「連帯」「探究」に定めており、知・徳・体バランスのとれた子どもたちの育成を目指している。学校目標を受け、「子ども、教師、地域が育ってつながる学校」を校長の願いとして伝えている。学校評価等より本校の良い点として、児童は概ね素直で物事に真剣に取り組めること、また、保護者が学校の活動には協力的であり、成果についても満足していることがあげられた。逆に課題としては、友だちや教師に頼ってしまうことが多く、自分の考えを持ったり進んで意見を発表したりすることが苦手であること。そして、恵まれた自然をはじめ、身の回りの人やものに対して、さらに感謝の気持ちを持ったり丁寧に接したりしてほしいというものがあった。以上の反省をもとに、今年度の重点を「気持ちが伝わるあいさつのできる子ども」、「無言清掃ができる子ども」、「自分の言葉で伝えられる子ども」の3点におき、種々の活動が関連して行われるよう留意している。

二. 環境教育の概要

思考や知識を働かせ、実践してよりよい生活を創り出していくためには、様々な体験が必要である。子どもたちは具体的な体験を通して、感動したり驚いたり、「なぜ、どうして」という考えを持つ。そして、体験活動を通して得た知識は、実生活のさまざまな課題の解決に大いに役立つ。体験活動を通して、考えられる体、感じられる体、動ける体、学ぶ体、そして自ら表現する体等々、体が陶冶され、学ぶ意欲が生まれてくる。こうした育ちにつながる体験活動を子どもたちに位置づけたいと思う。

平成元年度に実施された豊野西小学校 100 周年事業では、子どもたちが自然体験できるよう学校周辺の三念沢と砦山が整備された。それを契機に、地域の方と協力したホタルの育成や全校飯ごう炊さんが毎年続けられている。そして、豊野の特性を活かして、りんごの栽培が地域の方の協力を得て行われてきた。

これらの活動は本校の特色ある活動として位置付けており、子どもたちも楽しみにしている。また、体験を通して得られた感動や驚き、疑問は新たな学習に対する意欲につながる。けれども、毎年続けられてきた活動は、ともすれば当初の意義が薄れ、マンネリ化しやすい。活動を通して子どもを育てるという本来の目的を見失い、活動そのものが目的となってしまうことも心配された。

以上の点より、重視して環境教育を進めた。

- ① 新しく活動を始めたり組織を立ち上げたりするのではなく、すでに取り組んでいる活動について環境教育の視点より見直し、その意義を考える。特に本校の重点である、伝え合いのできる子どもや豊かな心情を持った子どもを育てる点について、体験活動を通して育てることを重視する。
- ② 地域環境のすばらしさや地域との協力の様子、全校や各学年で行われている体験活動の成果を様々な手段で伝え、環境を大切にしようとする心情や実践化できる態度を育てる。
- ③ 環境整備に取り組むとともに、地域と学校との結びつきを強める。